



生活者ネットニュース

2025.11.2

170号 ■発行:多摩・生活者ネットワーク ■発行責任者:武内好恵 ■連絡先:〒206-0014多摩市乞田1227-1-112
TEL:042-376-5758 ■FAX:042-376-8854 ■<https://tama.seikatsusha.me/> ■E-mail:office@tama-net.jp

多摩市議会の第3回定例会（9月議会）が10日3日、閉会しました。2024年度決算では、歳入約657.9億円（前年比14億円）、歳出636.3億円（前年比19億円増）を全会派により可決。保育園や幼稚園の『誰でも通園制度』や学校給食の無償化など、国や都の子育て支援策が印象に残りますが、昨年度は市の第6次総合計画の初年度。団塊ジュニアが65歳となり高齢人口がピークとなる2040年問題や、温暖化に伴う気候非常事態への取り組みなどは加速すべきです。

民の意識変容を促してきました。しかしコロナ禍を過ぎた今も、市が回収するプラスチック類の約98%が容器包装です。

店舗が率先する意味では、市内で販売されるペットボトル飲料をアルミ缶に替えるなど、売店事業者へ要請してはと提案し、先行市の取組みを勉強して進めたいたの答弁を得ました。

■ みどりの拠点から環境の拠点へ～グリーンライブセンター～

今年度から「環境の拠点」としてリニュアルしたグリーンライブセンター。これ

りを進めるために、「ごみ対策課」を「資源循環推進課へ変えました。2020年の『気候非常事態宣言』では2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにすると、そのためのエネルギーの内訳は、捨てプラスチック

多摩市・町田市・八王子市
の3市の組合が運営している
とはいえ、まずは多摩市と
して清掃工場をどうした
のか、様々な選択肢を排除す
ることなく、市民に見えると
ころで検討すべきと質しました。

ク削減などを掲げ、消費者市民の意識変容を促してきました。しかしコロナ禍を過ぎた今も、市が回収するプラスチック類の約98%が容器包装です。

店舗が率先する意味では、市内に販売されるペットボトル飲料をアルミ缶に切り替えるなど、瓦斯事業者へ苗

りを進めるために、「ごみ対策課」を「資源循環推進課へ変えました。2020年の『気候非常事態宣言』では2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにすると、そのためのエネルギーの内訳は、捨てプラスチック

A portrait of actress Miki Tanaka with a QR code in the bottom left corner.

2025.9月議会 一般質問より



市議会議員 岩崎みなこ



しかし現行の公職選挙法では、郵便投票が認められるのは戦傷病者、身体障がい者は、要介護では5の人のみ。さらに郵便投票の申請の手間や時間的制約のためなのか、その要介護5で郵便投票をしたのは市では対象者の1%に過ぎません。

市は「投票は民主主義の根幹だ」と言いますが、ならば棄権の実態を知るべきです。

■都内最高の高齢化率だからこそ

2017年の総務省の研究会報告では、郵便投票の対象を要介護3まで引き下げるべきと指摘していますが、8年経過した今も検討すらされていません。

戦後80年間、平和と民主主義を守ってきた多くの高齢の市民は今、それぞれが置かれた立場や事情から政治に訴えたいことを抱えているはずです。高齢化するニュータウンを抱えながら『健幸まちづくり』を掲げる自治体の長として、阿部市長は実態を把握し法改正を求めるところに、市としても対策を考えよう質しました。

高齢化社会の今、公職選挙法の改正を待つだけでいいのか

「生活者ネットワーク」は多摩市をはじめ都内32の自治体にあります。都・区・市議会議員39名が安心・共生・自治をめざし、それぞれの地域課題に取り組んでいます。

2024 年度決算委員会より 2024 年度決算について認定しました

2024年度決算は全会一致で可決

2024年度は、2020年3月の一斉休校から始まったコロナがようやく落ち着いた年です。「今や、時代はめまぐるしく変化することから、20年間を見据えるのは難しい」と、今後10年間の最上位計画とした『第6次多摩市総合計画』の初年度でした。

給食が無償化となり、多摩市も憲法にある「義務教育は無償とする」に少し近づいたと言える一方で、近年の物価高騰による食材の質の担保や、第一次産業におけるテクノロジー革新が著しいなか、食材の安全性の調査・研究は不可欠です。

一方、仕事の有無に関係なく、育児の大変さを社会全体で支援する仕組みとして、誰でも通園制度は、虐待防止や孤立防止の観点から重要と言え、市の方向性は評価します。

市の憲法とも言える自治基本条例を改正し「協創」が加わりましたが、市民による自治はすべての世代によるもの。まずは子若条例や子ども基本法に基づき、自治体計画に子どもの意見を反映させ、確実に子どもにフィードバックすることが重要です。



聖ヶ丘1丁目のモミジバフウの街路樹。
夏にありがたい木陰。

と願っています。

聖ヶ丘在住 K

みどりの保全育成事業～ニュータウンでないエリアのみどり消失に注目を

多摩市には、緑化と、健康で快適な生活環境の確保を目的とした「保存植物等補助金制度」があります。市民所有の樹木や生垣、樹林から市の基準に合うものを指定し、補助金を出しています。

しかし指定されている全樹林、樹木の約12%は、制度開始当初に登録したもので約50年経っています。多摩・生活者ネットワークの調査からは、所有者が倒木や落枝による事故を心配していることがわかりました。

他市では一律の補助金に加え、保険加入や樹木医の派遣、数年おきの剪定費を補助するなど、樹木を保存し続けていただぐ支援をしています。多摩市も「緑化推進に当たっては、市民や民間との協働も不可欠」と認識していますが、所有者とのコミュニケーションが十分にとれていないことを指摘し、市は「まずそこから始め、有効性の高い支援を引き続き検討したい」と答弁しました。

市政施行50年が過ぎ、おもにニュータウンの公園、街路樹は伐採し萌芽更新と転換期を迎える一方、古くから住む地域では、世代交代とともに農地や屋敷林といったみどりが急激に消失しています。ヒートアイランド対策のためにも市全体のみどり保全を市民と描き、時代にあった制度に変えていくべきです。

聖ヶ丘では、信号待ちが辛い日なたの交差点では50℃（80cm高さ）に迫る場所もあり、同じ通りの木陰と、16℃もの開きがありました。日が差す側の街路樹やその後ろの法面のみどりが空気や道路を冷やしていると思われます。

和田公園の川沿いでは150cm高さでは2℃程度の差が、80cmでは5℃、地表は15℃の差。測定値には体感以上の大きな差があり、水や緑の自然の力を実感しました。

夏の温度調査

場所		①聖ヶ丘1丁目 バス通り付近		②和田公園付近 (大栗川沿い)		③坂下公園上付近 (市役所下)		④乞田川永山橋付近	
日あたり		日なた	日陰	日なた	日陰	日なた	日陰	日なた	日陰
環境		聖ヶ丘1丁 目信号付近	街路樹の陰	中和田橋 付近	公園の 木の陰	旧鎌倉街道 沿い	旧鎌倉街道 沿い林の中	乞田川 遊歩道付近	乞田川 遊歩道付近
高地 表 か う の	150cm	38.4	33.8	36.4	34.8	38.9	33.1	37.4	35.8
	80cm	49.7	33.8	39.5	34.2	43.8	31.6	45.2	38.6
	地表			48.6	34.1			50.8	

多摩・生活者ネットワークは会員が3つのテーマ(教育・福祉・環境)に沿って学習・調査等の活動をしています。ご興味のある方、ぜひ。

温度調査から見えてきた
ヒートアイランド対策

